IFCCレター

改題NO-91（通算 105 号）2024 年６月

ＩＦＣＣ国際友好文化センター
東京都新宿区山吹町３１６ 番地
菊地ハイツ 101
ＴＥＬ０３-３２６８-４３８７
ＦＡＸ０３-３２６８-６０７９
Email:jvccpf@rmail.plala.or.jp

活動を続けています。

～ノルマンディー上陸作戦 80 周年･報道とデイエンビエンフー戦勝 70 周年～

近況報告をさせていただきます。

●1 月の会報 90 号以来、NPO 活動で 2 回ベトナムに出かけてきました。

今年は対仏解放闘争を勝利へと導いたデイエンビエンフー戦勝 70 周年にあたり、仏軍の司令部跡や、近隣の山奥にあるベトミン(Việt Nam Độc Lập Đồng Minh Hội ベトナム独立同盟会)司令部のボー・グエン・ザップ将軍の執務室やトンネルを訪ねてきました。日本では 1944 年 6 月 6 日のノルマンデイ上陸作成 80 周年が大々的に報道され対ロシアで「民主主義」陣営と専制国家の対比をことさら喧伝しました。その「民主主義国家」と称するフランスはベトナム植民地政策を継続しました。10 年後の 1954 年 5 月 7 日、仏軍はデイエンビエンフーの闘いで降伏しました。両軍に多大な戦死・戦傷者をだしました。

そのベトナムは来年、1975 年の南部解放統一からは 50 周年を迎えます。そこには、**“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という枯葉剤爆弾被害者の叫びは今でも続いています。仏軍を引き継いだ米軍は未曽有の殺人兵器を使用したのです。**

後ろの小屋跡がボー・グエン・ザップ将軍の執務室。左側にはトンネルがあり、他の事務所や家屋に通じている。訪問した鹿児島 JVPF の皆さんと（2024/5/24）

●米国による経済封鎖下でのキューバの困窮もますます厳しくなっています。同送の CUBAPON 会報をご覧ください。

●今、「平和のためにどうして戦争をするのですか」（原爆の図展での小学生のメッセージ）に無力のわたしがおりますが、戦争は「殺しあい」と読み替えることもできますし、過日ガザで起きた“4 人の人質を救うと称して 274 人を殺した”ことは逆立ちしても正当化することなどできようかーーと自問しています。

枯葉剤爆弾被害者支援

2023ベトナムアンサンブルチャリテイーコンサート
「仁愛の家」寄贈へ

御　礼

この度は、ベトナム戦争枯葉剤被害者支援のための「2023 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」(企画:IFCC 国際友好文化センター、共同企画:JVPF 日本ベトナム平和友好連絡会議)に御協力頂きありがとうございました。

アンサンブルは、2023年10月16日に来日し、4箇所で 5 回のチャリティーコンサート、1箇所で文化交流演奏会(東松山市･幼稚園)を行い10月23日に帰国いたしました。来場者は約1，400人、チケット購入協賛者は約2,500人ほどになりました。

日越外交関係樹立 50 周年事業として日本政府の事業認定も受け準備してきましたが、主体側の力不足で公演回数が計画通りとはいきませんでした。しかし、各地で感動を呼ぶ公演となり夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。

2023 年で年数26年目(2020 年、2021 年は中止)となり、累積で398会場、来場者数約118，700人を数えることになりました。

収束･停戦の見えないウクライナ戦争に加え、2023 年はパレスティナ･ガザでジェノサイドが発起しました。これによって関心が高まったという「皮肉」な状況もあり、“わたしの体の中では戦争が終わっていない”というベトナム戦争･枯葉剤爆弾被害者の叫びに応える活動の意義が浮上するということになりました。

小さくともこの活動の灯を燃やし続けたく思っております。

紙上をお借りし御礼を申し上げます。

2024 年 3 月
IFCC 国際友好文化センター
理事長　鎌田　篤則

【IFCC】

IFCC の活動基盤である共同出資旅行社アイエフシーは現在何とか維持し、今後はツアー・ファシリテーターとして皆様の要望に沿って行きたいと思います。

2019 年からはじめてきたE-mail 情報発信（現在：フエイクに抗う IFCC 情報）は、2023 年度（2023 年 6 月～2024 年 5 月）、6 回しか発信できませんでした。内容を整理しているうちに情勢の展開が早くわたし（鎌田）がついていけていません。会報の合間を縫う形ですが今後は回数を増やしたいと思います。

【キューバ＆ラテンアメリカ連帯】

日本キューバ連帯委員会（CUBAPON）は、2023 年度、会報を２回発行し、キューバへの連帯を行ってきました。（CUBAPON 会報をご覧ください）　なによりも 2023 年 11 月のキューバ訪問団実施が大きなできごとでした。

キューバは重度の困窮に陥っています。連帯の手を緩めることができない状況です y。

今年はCUBAPON結成 30 周年となりますので、「歩みを踏みしめる」場を関係者と相談していきたいと思います。

【ベトナムでの友好活動】

NPO 日本ベトナム平和友好連絡会議（JVPF）を通じた友好活動の柱は「枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援」と「少数民族出身学生への奨学金の活動」でしたが、昨年から「日越友好植林事業」が加わることになりました。

ベトナムアンサンブルチャリティコンサートは、2023 年の日越外交関係樹立 50 周年の年ということもあり、開催数は少ないながら継続してきました。IFCC の体力が厳しいですが、可能性があるうちは続けていきます。2024 年度は皆様の賛同でなんとか継続していきます。開催地は次ページ。

枯葉剤爆弾被害者貧困家庭への支援は、ベトナム北部ツ

2023 年度「仁愛の家」建築資金を寄贈した家族の建築評価式が行われました（2024/1/28）

エンクアン省で 2024 年 1 月、枯葉剤被害者家庭調査・慰問 2 軒、ハザン省で貧困家庭への『仁愛の家』寄贈 1 軒が実施されてきました。2024 年度も『仁愛の家』寄贈が継続される予定です。

少数民族学生奨学金支援は 2024 年 1 月、ハザン省ヴイスエン郡少数民族学生寄宿学校で 40 人、同ヴイスエン郡

23 コンサート収支報告

2023公演収支報告(2023/10/16～10/23　8泊)

《支出》		
招聘経費	国際航空運賃、出国TAX　9人	911,027
移動費	バス代(高速、駐車代含む)　9日間	677,610
滞在費	宿泊費,飲食費、他(7泊)	889,424
事務局費	人件費、添乗費、出張費、通信・送料、他	139,504
宣伝物作製費	プログラム	164,862
保険料		0
物資販売仕入れ		121,279
公演製作費(謝礼含む)		530,000
支援事業関連経費	進捗管理費(23年1月 派遣経費	230,040
支援金	23「仁愛の家」寄贈、調査慰問	200,000
特別支出／著作権代		0
	支出計額	3,863,746
《収入》		
繰越金	22収支(借入分)	−695,643
公演謝礼金(5公演)		2,753,484
協賛広告費		330,000
物資頒布		329,900
寄付	会場カンパ	176,507
自己資金	IFCCより製作費、航空券手数料相当	300,000
借入	IFCCより製作費、航空券手数料相当	669,498
	収入計額	3,863,746

※コンサート会計は借入が生じたが、前年の借入額に相当し、単年度では収支バランスを保てた。開催数が少ないながらも極力経費を削減し、支援基金を捻出してきた。連合・愛のカンパで1,278,402円の事業を実施してきた。

※連合・愛のカンパ助成を受け「仁愛の家」寄贈事業として1,906,320円規模の事業を実施してきた。

※コンサート事業の赤字分(借入)はIFCCコンサート事業会計の次年度繰越として処理。

「仁愛の家」寄贈活動
JVPFの支援事業実績(2024/3/10)

支出		
	「仁愛の家」寄贈一式	915,000
	調査慰問	29,280
	労賃・機材費等	732,000
	進捗管理費(旅費)	230,040
		1,906,320
収入		
	JVPF個人カンパ	302,500
	連合・愛のカンパ	600,000
	23コンサート事業	200,000
	現地便宜供与	732,000
	JVPF自己資金	71,820
		1,906,320

バクザン省で新規に奨学金支援が始まりました。贈呈式模様(2024/5/22)

公立中学校の少数民族出身学生 20 人、奨学金贈呈が実施されました。

5 月にはバクザン省リュックソン社中学校の少数民族出身学生 20 人への奨学金支援事業が開始されました。

日越友好植林事業が2022年度からハザン省で開始され、2024 年 1 月、第二期開工式が行われ日本からも植林ボランテイアが参加してきました。（鎌田）

～枯葉剤爆弾被害者支援のためのチャリティー～

2024ベトナムアンサンブル公演日程（予）

調整日：2024年６月17日

◎	１０月１１日（金）	福岡市1／西部ガスホール
◎	１０月１２日（土）	鹿児島・志布志市／文化会館ホール
◎	１０月１４日（月・祭）	宮崎・延岡市／野口遵記念館ホール
◎	１０月１５日（火）	大分市／明日香学園ホール
◎	１０月１６日（水）	広島・福山市／県民文化センターふくやまホール
◎	１０月１７日（木）	香川・さぬき市／志度音楽ホール
◎	１０月２０日（日）	愛知・知多市／市勤労文化会館やまももホール
	１０月２１日（月）	※文化交流事業（東京・練馬区立大泉中学校）
◎	１０月２２日（火）	埼玉・吉川市／市民交流センターおあしす多目的ホール
◎	１０月２３日（水）	神奈川・相模原市／相模原南市民ホール
◎	１０月２４日（木）	埼玉・川越市／ウエスタ川越照小ホール

◎会場確定　○会場調整

二つのキューバ大統領演説に触れて

鎌田篤則

本稿は『済封鎖下のカリブの社会主義ＸＸⅡ』(2024 年版)掲載の感想レポートからの抜粋転載です。

キューバを訪ねることが「闘い」だった

それは米国による経済封鎖と「制裁」による「経路の悪条件との闘い」そして「費用との闘い」だった。

――この項略――

カリブの星降る夜空を見上げながら

・12 月 5 日、青年の島のヘローナ港から本島のバタバノ港へ移動は真夜中の 12 時発の夜行便であった。イス席の船便では眠りにもつけずデッキにでた。見上げた夜空の星座にうっとりした。“星が降る”ような様を 75年生きてきてはじめて味わった。その夜空の下でいろいろと思いが廻った。

キューバ到着の 11 月 30 日、ホセマルティ空港から市内に向かいながら、その街並みが 1978 年の世界青年学生祭典のときから 45 年過ぎた今でもほとんど変わっていないことに驚く。わたしにとっては 2009 年以来 14 年ぶりのキューバだったが、心のなかに寂寥感が押し寄せてきたのはどうしたことか。「それがキューバだ」「それがキューバの革命だ」と言われたら返す言葉はないが、寂寥感はどこから来ていたか旅の途次気づくことなる。

・12 月 1 日、サンタクララでポリクリニックを視察し医師、看護師らスタッフと交流した。

わたしは「ヒッチハイクを強いられているような交通事情で、勤務シフトは機能しているのか、満足な医療活動ができているのか」と質問した。彼らが「米国の経済封鎖の影響で医療機器のメンテナンスができない。薬は生薬の利用も行いやりくりして何とかなっている」とコロナ禍との闘いや医療状況を報告したことにたいして、治療現場には時間のルールがあるだろうからもっと問題が横たわっているのではないのか、と思ったからだった。答えは「シフトに穴が空いたら、その時に動ける人に助けてもらう」とのことだった。キューバ革命の柱の一つの医療現場が、わたしが 45 年前に見た姿のままであり、それへの答えも 45 年前のままであった。「これがキューバ式」で済まされるのかとの思いが拭えない。

・12 月 5 日、体は疲れていたが星降る夜空に心は満たされながら 6 時間の夜行船旅を終え本島のバタバノ港に就いた。予定通りの到着に驚いたくらいだったが着岸してから時間がかかった。その間、一回のアナウンスもない。窓から接岸したフェリーをみると下船しようとした小型乗用車が船と接岸場所との段差が大きいため車体下部を損傷したらしく横向きになり動

【紹介】 頒布中です！

経済封鎖下のカリブの社会主義ＸＸⅡ(2024 版)

日本キューバ連帯委員会(CUBAPON)は今年結成 30 周年を迎える。結成以来現地に赴き見聞、体感をレポートすることを旨としそのレポートは 22 号を数える。今回はコロナ禍と米国の「テロ支援国家指定」による封鎖攻撃で訪問ができず、2023 年 11 月下旬に 4 年間ぶりのキューバとなった。

キューバの“リアル”は多くのことをわれわれに問いかけている。是非、一読を！

【体裁】A5 版　80 頁 【頒価】800 円(送料別)

【内容要旨】

・革命を守る砦としての労働組合　・チェ・ゲバラとサンタクララの攻防戦　・医療現場を訪ねて　・青年の島・日系人協会との交流　・フイデル囚われの地／青年の島・モデロ監獄　・ホセ・マルティ軟禁の地／青年の島・アブレ農場跡　・キューバ諸国民友好協会(ICAP)訪問

【発行・申込先】IFCC 出版会　FAX03－3268－6079

かない。その後ろに続く予定の乗用車、トラックも身動きできずにいるようだ。ここまでは「事故」と言えるが、その後が全くいただけない。乗船客が下船を開始するのに1時間も待った。

飛行機がメンテできなく飛ばない、フェリーの運航表が変更になる、燃料不足、それも今の困窮するキューバではあるだろう。だが、接岸して「乗船客を 1 時間も閉じ込め、アナウンスもない」ことにはどんなに「これがキューバ」としても済まされるものではない。1時間後、事故車を横目に乗客たちは下船したが。

寂寥感は帰国後触れたディアス＝カネル大統領演説で少し和らいだ。

二つのキューバ大統領演説に触れて

帰国後、年末から年始にかけてディアス＝ケネル大統領の重要な演説に出合った。

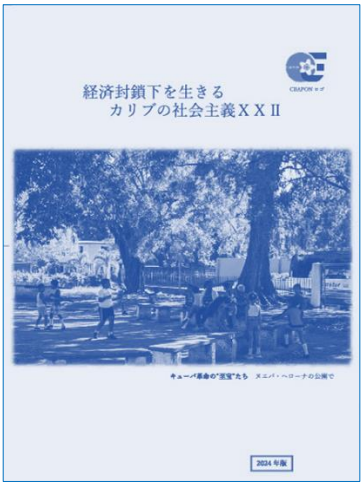
・2023 年 12 月 22 日「革命 65 周年の年」、ミゲル・マリオ・ディアス＝カネル・ベルム デス、キューバ共産党中央委員会第一書記兼共和国大統領が行った、第 10 期人民権力全国議会第 2 通常会期閉会での演説には悲痛な叫びにも似た参加者への叱咤が滲んでいるようだ。

米国による経済封鎖がキューバに大打撃を与えていることは事実として≪封鎖という原因によって、私たちの問題の多くは、引き続き残ることでしょう。これが経済戦争の目的であり、その結果は、革命の勝利以来、帝国主義がねらった目標を達成することはできませんが、明らかに実を結びつつあります≫だが≪その目的は、キューバを崩壊 させ、社会的分解を引き起こし、統治不能に陥らせることですが、それは、決定的に失敗 しました≫と強化された経済封鎖との闘いを一番目に持ってきている。

だが、同等のレベルの問題として「歪みや誤りの矯正を進める」として、≪私たちは、通貨調整の設計や不適切な導入に誤りがあったことを認識しているのと同様に、私たちは、数々の逸脱を防ぐことができたはずの緻密な行動規則なしに、新たな経済主体（アクター）を承認したことを問題にしてきました。また、承認されたルールの管理・擁護の欠如と、その実行に責任を負う国家機関の不適切な運営が、誤りをさらに大きくしていることを指摘することも重要です。今こそ漸進的に 矯正を進めるべき時です。このような問題が重なり、それが長期にわたって蓄積されたことで、キューバ社会には私 たちが望まない否定的な現象や症状が現れたのです。再度言います。矯正の時です。矯正は、革命に固有の過程です≫と、国内要因による、主体側の革命を促している。

われわれの革命は未知の歩みだ、過ちを改めるに逡巡するな、それは反革命だ、と代議員に詰め寄っているかのようだ。

この演説に触れて、今回の訪問によって自分の中に芽生えたキューバへの疑念が解消されたように思えた。「これがキューバだ」と自分に言い聞かせても「この非効率性」「この寛容過ぎさ」では隣の巨人に立ち向かうことはできるのか、いくら社会主義の実践は手探りだとしても一定の「ルール」の上でないと果実は腐るだろうーーという思いが心の片隅でくすぶっていたからである。



・もう一つの演説は 2024 年 1 月 1 日、革命勝利 65 周年に際して、ミゲル・マリオ・ディアス＝カネル・ベルムデス、キュ ーバ共産党中央委員会第一書記兼共和国大統領が行ったもの。

ここでは冒頭≪革命が、まるであの日太陽が沈まなかったかのように、その勝利が照らしたあの夜から 65 年後の今日、私は、この場にいることを光栄に思います≫と祝賀し、縷々革命の成果を述べているが、肝は第 10 期人民権力全国議会第 2 通常会期閉会演説で示したキューバの困苦の現状にたち≪今日、私たちは、キューバ人を際立たせる人間的知性のあらゆる武器と、なお必要な最大限の努力をもって、間違いを避け、物事を正しく進める努力をしながら、未来の尊厳を守るために集まっています。その努力は、遅く行ってはすでに役に立たないことを自覚して、直前の肯定的な成果をあげる努力です≫としているところにあるようだ。

≪（米国が）もし飢えと困窮のために一国を降伏させようとした人道に対する罪で歴史から非難されることを望むのであれば、封鎖を解かなくても、キューバは、解決する方法を見つけるでしょう。この国には、自らの努力で包囲網を乗り越え、克服するだけの十分な尊厳と才能と意志が あります。一日ではだめでしょうが、私たちはそれを実現します≫とし、≪革命の原則を一つも放棄することなく、変えるべきものはすべて変えるという私たちの決意を表明しましょう≫と結語へと続く。

「時は待ってくれない」としながら国民に呼び掛け、「キューバの体制にいろいろ云うやつがいたら、経済封鎖を止めてから言え」と毅然とした姿勢を誇示。国民を激励しながら、むしろ生存をかけた闘いへの決意を呼びかけている。

記 2024 年 1 月 20 日

（注）二つの大統領演説は、いずれも駐日キューバ大使館提供による。